

ぼくとお兄ちゃんにできること

とち木市立寺お小学校

三年 小林 大馬 男

「明日の朝は、ごみひろいをしよう。」

思いきってぼくが言うとお兄ちゃんは、

「いいよ。」

と言っ てにっこりわらってくれました。

ぼくは、小学三年生。中学生のお兄ちゃん

といっしょに、雨の日以外は毎朝ランニング

をしています。朝早くおきて、朝ごはんの前

に走ります。家の近くの田んぼの道を走って

いますが、けしきもきれいで、空気も新せんで

で、つかれるけれど、とても気持ちがいいで

す。

でも、道のおきに、たまにごみが落ちてい

るのを見かけます。しかも、毎日少しずつご

みがふえていくかんじがするのです。ぼくは

とてもいやな気持ちになりました。そこで、お

兄ちゃんに、「ごみひろいをしよう」と言っ

たのです。

次の日、ぼくたちは、トングとごみぶくろ
を持って出発しました。さっそくわりばし
やたばこ、あきカン、はほうスチロールな
どが落ちているのを見つけてきました。ひろつて
いると、すぐにふくろがいっぱいになってし
まいました。ごみはたくさんあって、ひろう
のは大へんだ。たけれど、きれいになつた道
を見ると、ぼくの心はとてもはれはれして気
持ちがよくなりました。だから、お兄ちゃん
と二人で、水曜日と金曜日はごみひろいの
日と決めました。

次のごみひろいの日、ぼくはまた、たくさ
んのごみを見つけました。この前きれいにし
たばかりなのに、ふくろがすぐにいっぱいにな
ってしまいました。「なんでごみを道路に
すてるんだろう」とぼくは思います。ふしぎ
でしようがないです。ごみをすてる人は、き
つと自分の家の近くにはすてないんだらうな
だれも見えていないところではすててしまっ
たらうな、ごみをごみばこにすてるだけのこと

がめんどくさいな人で、なんてめんどくさいが
りやなんだろうと思えます。ごみを道路にす
ててしまおう人の心は、ごみが落ちている道路
のようによごれている人だと思います。
ごみひろいはじめてから、今まで気づか
なかっただよ様な小さなごみまで気になり、ひ
ろうようになりました。ごみをひろうたひに
ぼくの心が少しずつきれいになっ、ていくよう
なかんじがして、ごみひろいが楽しくなっ、て
きました。

ぼくのすむ寺お地くは、山と川と田んぼに
かこまれたしぜんかいっぱいの町です。この
しぜんかいつまでもきれいなままだと、とて
もうれしいです。ぼくたちががんばっ、たこと
で、みんなが気持ちよくくらし、てくれたら、
とてもしあわせな気持ちになります。ぼくと
お兄ちゃんができることはとても小さなこと
だけれど、みんなのためになることができ、る
のはとてもうれしいことなんだということに
気づきました。これからもがんばりたいです。